

午後2時零分再開

○議長（堀尾俊浩君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、16番実藤輝夫議員の質問を許可します。16番実藤輝夫議員。

（16番実藤輝夫君登壇）

○16番（実藤輝夫君） 16番実藤輝夫でございます。お忙しい中に多数傍聴席に来ていただきまして、まずもって御礼申し上げます。

6月議会におきまして久方ぶりの登壇をし、市政についての考え方を述べさせていただきました。きょうは40年前をもう一度振り返り、一般質問を6月定例議会から4年間、16回、1回も欠かさず行ってきたことを思い出しております。

幾つかの思い出の中に、総務委員会に所属させてもらいまして提案して、6人の議員さんと毎月5,000円を拠出しまして、定例会議会ごとに勉強会をいたしてまいりました。その当時、中部8市だったと思いますが、そのメンバーと全ての市を回り、じかに身近な共通の類似性のある問題を捉えて、参考にしてまいりました。

2期目におきましては、先ほどの16回の一般質問の中におきまして、私は31歳でして、スポーツ振興を掲げて議場に通させていただきました。ナイター施設をつくってくれ。球場を増設してくれ。その他いろいろ述べました。ところがある先輩が、「実藤議員、そういった問題を述べるならば、財政問題はやめたほうがいいよ」と。「必ず矛盾が起き、できなくなってしまう」と。

しかし、私は、それはおかしいと。財政的な見直しをしながら、無駄を省き、必要なもの、今、市民が望んでいるものを当然、市長、執行部に要望していくのが住民代表としての責務ではないかと。そういうことを申し述べ、毎回、定例議会ごとに、わからない財政の用語から、数字から、そして、その流れから。そして、最後は財政として、財政問題に対して市はどうあるべきなのかということを述べてまいりました。いろいろな思い出が錯綜しております。3期目になりますと、新人議員の方からも財政問題の研究会をしましょう。あるいは当面、旧甘木市時代でしたが下水道が完備しておりませんでしたので、下水問題を取り上げて、行政に訴えていこう。こういったテーマを持ちながら、自費であちらこちらに行つてまいりました。

今振り返りますと、都市下水路が徐々に整備され、とりわけ農業集落排水事業——その当時、この言葉も知りませんでした。今、朝倉市は2つの箇所では稼働しております。やはり議員が自分たちの目的を持ち、何のために議員になったのか。そして、手を携え、勉強し、研究し、ただ視察だけではなくて、それを議員の立場で提言していく。こういったことを行つてまいりました。

きょうもいろいろな過去の思い出を思い起こしながら、市長に今後の朝倉市のかじ取り役として、どのような朝倉市を目指していこうとしているのか、これを問いただしてい

たいと思います。

以下、質問席において質問を続行させていただきます。

(16番実藤輝夫君降壇)

○議長(堀尾俊浩君) 16番。

○16番(実藤輝夫君) きょうのテーマ、6月議会に申し入れをしておりました、市長に問う、朝倉市の現状と課題及び展望とその施策というふうに題をいたしております。きょうは、具体的に1、2、3の項目で、市長の具体的な施策を問いただしていきたいと考えております。

まず、簡単に、市長の就任から1年半がたとうとしております。県会議員7期を終えられ、そして、市長職もまさに板についた市長だというふうに思いますが、私のところに入ってくることは、どうも一つの朝倉市の方向性が見えないと。で、失礼な言い方ですが、市長を見るときはテレビで寄附を受けたり、イベントに出られたりすることは見ますが、なかなか市長の考え方がうかがい知れないというようなことを聞きます。恐らく市長は、こういうふうに言えば心外でありましょうし、市長を支援しておられる議員さんも、実藤、何を言っとるかと言われることだと思いますが、決してうそではなく、市民の声です。

1つ、私の市民の方からの話が、小学生が『「お父さん、朝倉市に住みたいと思うが、朝倉市は将来どげんなるとね」とこげん聞かれたが、実藤議員、あなたは どう思いますか』というふうに聞かれました。まあ私は一議員ですから、市長も含めて今後行政の方にお聞きしようということで、この1番目のタイトルになりました。

まず、前置きはそのくらいにして、市長の答弁をお伺いしたいと思います。

○議長(堀尾俊浩君) 市長。

○市長(林 裕二君) 市長に就任して1年4カ月が経たところであると。その中で、現在私が朝倉市の将来をどう考えているのかといったことで、お答えをさせていただきたいというふうに思います。

まずは、九州北部豪雨災害あるいは昨年の西日本豪雨災害からの着実な復旧・復興をなし遂げなければならないということで取り組んでまいっているところでございます。

そしてまた、ことしも豪雨による被害が発生しましたが、全国このような状況が続いています。ということでありますので、今後は災害からの復旧・復興はもちろんでありますけれども、減災・防災、そういった観点からも大きな政策課題として取り組む必要があるというふうに、現在認識をいたしまして、これに向けまして対応を今しているということでございます。

さらに地方創生、とりわけ人口減少問題、これは喫緊の課題でございます。特に若い世代に朝倉市に住み続けていただく、朝倉市に住みたいと思っていただけるような施策の創設・実行が急務であるというふうに考えます。移住・定住の促進、そしてまた、子育て環境の充実、こういったことを重要課題としているところであります。

もう一つ、朝倉市の基幹産業は農業でございます。農業後継者や担い手の育成など、そもそも課題を抱えておった現状に、災害という大きな課題を背負うことになりました。被災農地の復興にあわせて担い手を確保していく。それまで取り組んでこなかった農産物への取り組みや、災害で活動をしてきています杷木ベース、こういう新たな動き、そしてまた、地域おこし協力隊など、関係人口をかみ合わせていくということが必須であり、今後の大事な点かなというふうに思っているところでございます。

○議長（堀尾俊浩君） 16番。

○16番（実藤輝夫君） 私も長年議員やっておりますから、通常の話聞いて総論的な考え方を聞くためにここに立っているわけではありません。通告も具体的な施策を述べてくれと。市長が今考えられたことは、ある面では、恐らく傍聴席の方もそうだと思うんですけども、ここに書いてある朝倉市総合計画の中に出てくる章の話であり、今の朝倉市が目指すものというのは、決して1,800ぐらいある市町村の中でも同じような回答が出てくるだろうと。農業じゃないところにおいては漁村、あるいは、都市の場合においては都市の問題。ただ、そういったものを具体的に将来を目指して、私が一番期待しているのは、朝倉市はこういう市にするんだ。そのためには、こういう施策を持ってくるんだという市長の考え方がないと、こんな話を何回繰り返しても、結局はここに書いてあるものをルーチンのような形でやっていくだけだ。

で、やっぱり一つの目的性がありまして、6月議会で述べましたように、朝倉市は消滅可能性都市ということ。もうこれは市長も認めとるわけです。この中できれいに、二十数ページのところに出て、この中に載っています。20年後は朝倉市の人口は3万6,000から3万8,000。女性は、20歳以上から39歳が5,600人から2,600人。もっとこれから40年後、約2万6,000人ぐらいに減少していく。そして、女性も20年後の2,600人から千数百人になるだろうというふうに言われています。

私たちは、小さいながらも政治家の端くれとして、現状にどう対応していくかということと、未来をつなぐ将来のためにどういう施策を打っていくかということが必要だと。もう遅いぐらいになっている。たまたま最悪の豪雨災害というのが起こりましたから、目がそっちのほうに行きましたけども、私たちに課せられた将来のための施策は、一日もおろそかにすることはできない。どんどん人口は減少している。一つの例を挙げると、国勢調査が来年行われます。10年前から5年後、5年間で行われますから、5年後に3,000人、朝倉市は減少。そして、15年までの間に4,000人減少。単純に考えて、今の実情からみたら5,000人は来年の国勢調査で減少していくだろうと。今、朝倉市のここに住んでおられる方が5万2,000人台です。恐らく4万七、八千人になるだろうと。急激に人口減少が進んでいく。

そして、これは次の定例議会で教育委員会とも話しますが、生徒数がどんどん減ってきている。これからどういう対応をしていこうかと。特に、私たちの回りに子どもの声がほ

とんど聞こえなくなっている。こういった状況の中に、朝倉市としてはこういうことをやるんだという、市長が打ち出してくれば、そういった総論的な農業だ、何だと。当たり前のことです。誰が聞いたって、また、きょうも朝からあっていましたし、今後もその問題が大事ですよという一般質問があります。でも、私が悪いんでしょうか。朝倉市がこれやるんだと、これに向かってやるんだというのは、私にはわからない。何をやろうとしているのか。どういう朝倉市にしていこうとしているのか。じゃ、後からもどんどん述べていきますけど、私は、そういった具体性のある話をしてほしいということで、きょうの一般質問に立っています。私は市民に対して報告義務があります。市長はこういうことを、朝倉市の目指す市づくりにやっっていこうとしているから、お坊ちゃんに、ぜひ朝倉市の将来のために頑張ってもらいたいと言っておいってくださいと言わないかん約束をしておりますので、今後の課題として次に移っていきますので、この中で私なりの考え方を述べていきたいと思います。

続けます。私のその質問に対して何かありますか。具体性のある考え方を持ってもらえるかどうか。

○議長（堀尾俊浩君） 市長。

○市長（林 裕二君） 具体的な将来像といったことについては、財政問題、それから現下の災害対応、そして税収をいかに確保していくか、そういったことを含めて総合計画として新たな視点も取り入れて、重点的な項目もつくりまして、それを進めていくということも必要でございますので、こういったことも御理解いただきながら、将来像を示していくということについては大切なことであるので、そう認識を深めながらやっっていくことにします。

○議長（堀尾俊浩君） 16番。

○16番（実藤輝夫君） こういう言い方をすると、また、あなたを支援している議員から、実藤、あなたを何か追及しよるような言い方に捉えられるというふうに言われておりますが、今の答弁では、日本一とは言いませんが、朝倉市をこういう市にするんだ。観光では一番だ。農業でもこういうものを中心にしてやっっていこうとしている。職員みんな、ついてこい。議員も協力してくれという、こういうスローガンみたいなことに対する具体的な政策で動くということが必要ではないかというのを私は述べているわけです。今の答弁だったら、ありきたりの——そんなもので承知ができない。私は、もう今度8期目ですから。

先ほど言った40年前のときに、あのときは言いませんでしたけど、一番最初に6月議会から、その数日前に身障者の、体の不自由な方が来られて、丸山公園の99段あるのを上るのに、私たちは上れないと。何とか手すりをつけてくれという形で、大きな話からすると小ちな話かもしれませんが、そういう市民の声を一つ一つ積み重ねてきました。当時の塚本倉人市長が、よし、わかったと。見てください、今でも残っていますよ。この前会っ

た人から非常に感謝されました。

それと同時に、大きい将来のビジョンを掲げていかないといかんのだと。私もこの40年の間に、もう本一冊書けるぐらいの経験をしてきましたが、この場ではおいおい話をしていきます。

それで、具体的に話を進めなきゃいかんので、2番目のふるさと納税とその活用という形で市長に伺いたしたいと思っています。

市長にとってふるさと納税、これは実質寄附金ですけど、どのように捉えておられるのかをまずお伺いしたいと思っています。

○議長（堀尾俊浩君） 市長。

○市長（林 裕二君） ふるさと納税の制度ができた趣旨がございます。それは税収に偏在があると、特に都会に集中していると。そういったことを、特に地方に分配していくと、そういった点から始まったものであろうというふうに理解をしているところでございます。

現在の朝倉市を考えてみますと、災害の話は必ず出てきますけれども、災害からの復旧・復興には多額の費用を要しておりますし、これから先もまだ予断を許さないような格好で財政需要が出てきているという現実が一つあります。

そして、議員がおっしゃってられますように、将来に夢を持てる朝倉市をつくっていくためには、国の補助金等を十分に研究、活用しながら、知恵を結集しながらやっていくということで取り組むことが必要であります。そういうことにありましても財源がどうしても必要ということでもあります。現在の日本の税制度、特に地方税に回ってくる税金といたものは限られておりますし、そしてまた、やらなければならないことがたくさんあるということでもありますので、ふるさと納税は、これからの朝倉市にとって極めて貴重な必要な財源であるというふうに考えておるところであります。ふやしていきたいということでもあります。

○議長（堀尾俊浩君） 16番。

○16番（実藤輝夫君） 総論としては、どの市町村の長もそのように答えております。

問題は、このふるさと納税が平成20年に始まったわけですけど、私もあんまりこれは詳しくありませんでした。で、二十五、六年ぐらいから、ふるさと納税の問題は徐々に全国的に話題になってきましたし、それで、当時のこれは平成26年だと思いますが、後でも言いますが、朝倉市人口問題に関する提言というのに入れています。これは平成26年に、私を含めてここにも4名おられますが、9名の方で研究会をつくりまして、こういうのを提言して、自分たちで提言書をつくったんです。

この中に、ふるさと納税制度の積極的推進という項目をつくっております、この中で、平成25年度実績で、市長、勘でいいです。これは別にクイズをしているわけじゃないです。中野副市長でもいいです。平成25年度、勘でいいですけど、ふるさと納税、幾ら入ったかわかりますか。調べていますか、平成25年。

○議長（堀尾俊浩君） 市長。

○市長（林 裕二君） 失礼しました。平成25年度、32万円です。

○議長（堀尾俊浩君） 16番。

○16番（実藤輝夫君） 5年前です。32万円。後でも言いますけど、泉佐野市も含めて、今どれだけのお金がふるさと納税で市町村を潤しているか。いいですか。その32万円というのが5年前の平成25年度実績で出てきました。これはもちろん市のほうからの資料です。そしてそのとき、私は当時の市長に、返礼品が地場産業育成になる。しかも、現金が寄附金として入ってくるから、そんな数字じゃだめじゃないかと。その当時、一番多いのが玄海町とか、北海道の上士幌町が8億円なんです。朝倉市が32万円のときに既に8億円。しかも、これ町です。市じゃなくて町が。

それで、そのときの市長にこれを話したら、趣旨が違うと言われました。で、私は、皆さんどう思うか知らないけど、先ほど市長も言ったけど、今、この中で一般財源を潤す力を持っている方が誰かおられますか。増税以外にはないんですよ。もう一つ方法がある。不動産売却。こんなことはできない。手数料を上げる。これもできない。増税しかほとんど道はない。それが、こういう国の制度が出てきた。これに飛びつくと。何がここに問題があるんだ。趣旨が違う。何が趣旨が違いますか。最初的时候は、先ほど市長が答弁されたように、不公平な市町村の税の格差を是正するために発足したというんです。誰も承知。しかし、何とかお礼をしましょうということでやった。しかし、それが入ってきた。これは法律違反でも何でもなし。しかも寄附金です。そして、国が認めている。10%の上限で減免措置をしていたのが、今度は20%になる。これで一気に上がった。

それで、こういう状態を何とかしていかにやいかん。私が何を言おうとしているかわかりますね。この問題を財源確保にしなければ、何やったって、金がない、金がないと言われる。しかも、まともに話しよったら、財政見込みでこれどうですかと。決算委員会はほとんど異議なしですよ。

で、實際上、こんなに厳しいと言いながら、じゃ、どうやって財源確保をするのがいいのか。趣旨が違う。とんでもない。後でも載せますが、皆さん、こういう表、御存じですか。ふるさと納税寄附受け入れ状況。正式に出ている表です。一番上に、大阪府泉佐野市。幾らだと思いますか。497億円。ただしその中で、入ってくる金を計算した場合、いい・悪いは皆さん評価してください。しかし、本当に朝倉市が今、限界集落を目指して進みよる。そして財源が足りない。そしてまた、最悪の豪雨災害をどうしていくか。こういった危機的状況の中に、趣旨が違うなんて話にはならないし、そしてその次に、私、もう一回質問しましたら、そのとき佐世保だったか、平戸でしたか、そこが1番でした。そしたら、その当時の市長は、その市長が迷惑しているということを言いました。15億円ぐらいたしか入っていたと思います。朝倉市が70万円、100万円のころに。私は、そのとき言いましたよ。迷惑している。誰が迷惑しているのと。職員ですか。違うでしょう。本当に迷惑し

ているのは、それが入ってくるのに、入ってこない市民です。町民ですよ。入ってくるんだから。

で、後からもその話をしていきますが、このふるさと納税が今やいろいろ行き過ぎたということでセーブがかかりました。総務省が。ところが、きのうきょうの新聞では、泉佐野市はその措置はおかしいんじゃないかという国と市町村の調整をする委員会が勧告を出しました。もう一回やり直せと。だから、泉佐野市は、やってきたことはまともだったんだということになります。ただ、今後、今までのやり方が通じるかどうかはわからないけども、しかし、すごい金額です。

で、私はこれを述べたいというのは、先ほどの朝倉市が目指すものをつくろうとすると、必ず金がかかる。だからできない。こういうものがあるというふうに言うんだけど、果たしてそうなんだろうかというふうに考えます。

1つ具体的な提案で、これ参考になると思いますので。きょう私は、せっかく来ていただいている傍聴席の方々に聞いていただきたい。天童市というのがあるんです。御存じですか、山形、将棋で有名な。あれが、過去、全国3位になったことがあるんです。びっくりしました。朝倉市と全く状況が似ています。人口も、まちのあり方も。いつも何かを言うと、そこは違う。そこはうちとの状況が違っている。よく似ているんです。山の中です。

で、そこに私は電話をしました。そしたら、その当時で8人体制でふるさと納税をやっている。今度、天童市は38番に下がっていますけど19億円です、19億円。多いときは30億円。で、その電話の中で、これは参考になるのでぜひ中野副市長、総務部長も聞いてほしいんだけど、担当、ふるさと納税の課の中に兼務で課長が1人、係長が1人、そして嘱託が、当時の私の記憶が正しければ6人、嘱託とパートを入れていた。市長、人件費はこれで幾らかかると思いませんか。1億円かかりますか。1,000万円もかからない。課長、係長はちゃんとした正式な給与が出ますからね。あと嘱託、幾らですか。最高20万円とか聞きますが、15万円、20万円。パートを入れる。そして、その当時ですら、32億円の寄附をもらっているんです、32億円。何が迷惑ですか、これが。そんなことを言う行政ですか、市長ですか。議員はこれを見て、どう思いませんか。少しでもお金が欲しいというのが市民の願いです。これをつくってほしい。ああしてほしい。改修してほしい。全部、金がない。でも、これは税金でも何でもなし。日本全国の国民からの寄附です。それをどう使おうと地方自治体に任されています。唯一、寄附した人の意思を尊重するというのがあります。

さあ、皆さん、今この朝倉市が30年度で、この裏側なんです。これも入っていないんです。朝倉市ね。もうクイズ番組はやめますから。259番で3億5,200万円。259番で3億5,200万円が平成30年度です。このランクが150位までです。ここから進んだら、これぐらいのところに来るんです、これが。で、3億5,000万円が大体半分ぐらいを、3分の1とは言いません、もうちょっと多いでしょうけど、市の財源に入れているんです。

で、皆さん方は御存じですか、この入ってきた金をどういうふうに使っているか。僕も

詳しくは知らなかったけども、今度の市報に出ています。ふるさと納税の使い道というのが。これ恐らく見られたと思いますけど。

でも、それはそれなりに必要でしょう。しかし、この中で特筆すべきことが1つあります。佐賀県みやき町。これはテレビで何回も出ました。で、このふるさと納税、この全部そうだと思うんですが、このふるさと納税を利用して、活用して、地域浮揚のためにいろいろな施策を行っている。で、このみやき町は、先ほどから出ている保育の問題、医療の問題、高校生まで全部医療費は無料です。このふるさと納税を充てています。これは一つのその町の特徴でしょう。

だから、市長、私が言おうとしていることはわかりますよね。こういったものをふやすことによって、そういった自分が思う、市長として俺はこれをやるんだ。朝倉市はこういうふうにするんだということに、財源を使い込んだらいいじゃないですか。誰一人として、この議員の中で反対する人はいませんよ。

で、私が言っているのがおかしいんだったら、財源を確保してくださいよ、議員さん。僕は、もうこのときから全部言っている。で、この中にも書いています。いいですか、僕の話が長くなっていますが、やっぱり知っていないことが多過ぎちゃって。市長、ふるさと納税先進自治体会議というのを知っていますか。

○議長（堀尾俊浩君） 市長。

○市長（林 裕二君） 名前だけ聞いた記憶はあるようです。具体的にその会議の中身とといったものに考えというか、資料をとったことはありません。

○議長（堀尾俊浩君） 16番。

○16番（実藤輝夫君） これは、先ほどの人口問題に関する提言の中で、ふるさと納税を積極的に推進している自治体が、おのこの情報を交換するふるさと納税先進自治体会議を結成したと書いてあるんです。で、私、提言しましたよ、時の市長に。皆さん方も知っている人は知っている、知らん人は知らんでしょうけど、一笑に付されました。

で、ここで大事なことが一つあります。ただ、総論で話しません。この近辺に大刀洗町というのがあります。御存じですね。大刀洗町は最初からこれに入ったんです。そして、大刀洗町、このランクで100番以内に入っているんです。今、10億円です。平成30年度に10億円。ほかのところは入っていない。うきは市も朝倉市も、筑前町も。朝倉市は、これは豪雨災害の寄附も来ましたから、キリンビールを持つとるから。そういう特徴はあるんです。

でも、こういうところに入って、大刀洗町は最初からこの自治体会議に入って、皆さん、ぜひ覚えてとってください。部課長さんも何か考えないといかんですよ。そして、恐らく大刀洗町の財源は、失礼だけど、私も調べていないんだけど、朝倉市よりはかなり少ないはず。で、この10億円というのは非常に大きな金ですよ。

で、先ほどから言っているので、もう一つあります。今度、私たちは何しに行くか。交

流会、懇親会の際に、高鍋町に行きます。高鍋町、ああ、いいね、久しぶりですね。お互い交流しましょう、姉妹都市ですから。しかし、高鍋町から学ぶものを持って帰りましょうや、行くなら。高鍋町は、平成30年度で30番、21億8,200万円、我が姉妹都市は。これだけの差があるんです。税の収入は恐らく朝倉市の3分の2以下だと思います、町からして、規模からして。でもね、21億8,200万円も。じゃ、この金はどういうふうに入ってきて処分するかというのは、通常の方法では、3分の1が返礼品で、残りの5割に達するところが手数料、広告、その他に使う。朝倉市も恐らくそうでしょう、総務部長。そして、残りを自分の財源に入れるんです。だから、今、私が述べた金額の半分はこの市町村に入ってきているということ。大刀洗町で10億円、およそ5億円。概略ですよ。高鍋町で21億円、概略10億円が毎年そのまま入ってくるんです。これから先どうなるかわからないとは言いながら、みんな努力しますよ。

で、こういうことを私たちは本当は議員として、市長も含めて常にネットワークを出して、朝倉市の財源をどうやったら確保できるのか。俺が望んでいる、自分が望んでいる将来の朝倉市はどうやったらつくれるのか。そのためにはどれだけの金がかかるか。中野副市長、聞きながらうなずいておられますが、そうでしょう。金が必要でしょうが。ない袖は振れんと。ない袖は振れんことはない。知恵を出せば入ってくるということを5年前から提言している。

しかもまた、ふるさと納税先進自治体会議を聞いたことはあると。これはね——これ以上言うと、ちょっとまた後ろから言い過ぎだという声が出てきますのでやめておきますけど、やっぱりおかしいんじゃないですか。トップですよ。もう今は、日本全国、米中経済戦争を含めて企業は生き残るかどうかと、もう戦々恐々です。ね、中野副市長、そうじゃないですか。福岡県を見るときにも、今は韓国人が来ない。この問題を抱えて、韓国の観光客が来ないと悲しみ、ところが、一方ではホテルをどんどんつくっている。これ将来的にどうしようと、みんな、長たるもの取締役。

で、私は、議会は、議員は非常勤取締役だと思っているんです。会社でいうならば。私たちは発言権があるんだから。ただし執行権はない。予算権もない。しかし、それを承認していく私たちには責任があると思っています。私もいろいろやっていますが、常に頭は考えていますよ。

それで、市長、このふるさと納税を伸ばすために、やっぱり先ほどの例を挙げましたが、市長としてはどういうふうに考えていきますか。具体性を持った形で取り組んでください。

○議長（堀尾俊浩君） 市長。

○市長（林 裕二君） 今、御質問があった中で、議員が言われたことを踏まえて、現在の朝倉市の取り組み状況をちょっと紹介させていただくと。そして、今後こうやるべきじゃないかというお話でございましたので、それに合わせてお答えさせていただきたいというふうに思います。

平成30年度は、平成29年度の6億円近くから7割程度に額が落ちたといったことで、大変危機感を実は持ちまして、いろんな手だてをやるべきだろうということで、具体的に朝倉市内あるいは福岡に籍を持つ事業所、それを朝倉市外の人たちが従業員として働いているところに、私直接営業に、営業という言葉が合うかどうか分かりませんが、そういったことをする一方で、担当はふるさと課がやっておりますので、ふるさと課のほうで返礼品をもうちょっと厚くすると、ふやすということ。そしてまた、宣伝の仕方も研究をしていろいろやっていくということで取り組みをさせていただきまして、現在の取り組みとしましては、地域資源を生かしまして地場産のものの寄附の返礼品ということで、地域経済再生に一役を買うことができるものであるということから、農産物や加工品等を地元業者に協力をいただくということが必要ですので、ことし4月に、それまでの約180店から約300店にふやしたところでございます。今後さらに、近いうち100店をふやすということがございます。

また、インターネットでの取り扱いサイトを7月から1社ふやしまして、多くの方の目に触れやすく、寄附がしやすい環境を整えたところでございます。こういったことの取り組みの成果もあったというふうに思っておりますが、平成30年度は寄附金額が3億5,000万円の実績でありましたが、今年度8月末で既に4億3,000万円の寄附をいただいているところでございます。一応、ことし5億円ということでありましたので、それを上回る順調な伸びを今示しているということでございます。

今後とも、議員が言われますように、高鍋町との姉妹提携も当然でございます。ついこの間、高鍋町のその担当している人と甘木・朝倉でお会いする機会がございました。そういったことも含めて、今後さらに研究を重ねていく必要があるということで取り組みをしていきたいというふうに思っておる次第であります。

○議長（堀尾俊浩君） 16番。

○16番（実藤輝夫君） いいですか。私は原稿を使わずに、自分の資料と今までの経験と思いを込めて市長に質問しているんです。市長もやっぱり今の自信を持ってやっているんだと言うんだったら、読まなくて、私にぶつけてくださいよ。実藤議員っち、あんたそげん言うけど、うちはこがしこのことをやっているんですよ。こういった形でやってくださいよ。何か私が一方的にあなたに言っているみたいで、読まれて、答弁されている。それで納得されますか。具体的に何をしようとしているんですか、ふるさと納税で。

で、今、お会いできたと。今度、高鍋町に行かれるんですよね。こういう課題をぜひ、高鍋町は朝倉市から見たら先進地です、小さな町でしかないんですけども。20億円ですよ。今、3億円から、これ5億円だと。金額が話にならない。4倍、5倍の世界。で、こういったものを具体性を持ってやっていかなきゃいけない。

それから、先ほど、私一つ提案しました。本気でやるんだったら、この金額で、前の市長が言ったように、よその市は迷惑していると。そんなことを言わないために、1,000万

円ぐらいの人件費をかけて、天童市みたいにやったらどうですか。何がそこに問題がありますか。30億円ですよ、そのメンバーで。30億円。今回は20億円近くですけど。何が迷惑だの、趣旨が違うだ。それでもって天童市は将棋の製造、将棋が復活した。私、直接電話で聞いて、もう弾む声だった。焼酎か、酒か。それからラフランス、もういいですというぐらいに職員が私に回答しました。本当乗っていましたね。迷惑どころじゃない。これだけのものを集めて、自分たちはこれだけ貢献しているという自負でしょう、これは。職員の皆さん、どう思いますか。自分たちはこれだけのことを、金を集めて、こういうことは教育委員会もそう、福祉も農業もそう。全て、今金が足らんから、これをしたいと思ってもできません。それを、今、同じことを繰り返しましたけども、市長、陣容、体制を整えて本気でやらないと、金が入ってきませんよ。6月に言ったように、財政の話は、私しっかりと6月議会でやりましたから、きょうはやりませんが、財調基金も減っていく。特別交付金も減っていく。地方交付金も減ってくる。臨時財政対策債、これも減ってくる。中野副市長、そうでしょう。これから先はどんどん、これだけの豪雨災害で、また今度激甚災害認定を菅官房長官は努力するち発表した。今、西日本豪雨が、この前新聞で出て、どれぐらいの災害金額かわかりますか。2兆2,000億円です。朝倉市の10倍以上。これがこれから先、平成31年、平成32年にかけて、国は朝倉市にしてやったような形で持っていかにやいかん。そうすると、どこから金を持ってくるか。市長の役割は、金を国から、県との関係をとる。そして、私が言っているような新たな財源、税とは言いません。今、ふるさと納税が大きな中心課題。それ以外に市長としてどう考えていくかと。これが今のあなたの役割じゃないですか。ほかんこと、きょうは細かい数字は聞いていませんからね。知っておかにやいかんことを聞いている。

で、ふるさと納税を今の体制でするか、どうか。私が提案したものを具体的に、ただ検討しますじゃないけど、本気でそういう体制をつくっていかうとするかどうか、何が問題があるか、僕は議会の議員に聞きたい。今の私の提案がどこに矛盾があり、おかしいかどうか。あなたがやると言えば、全員賛成する。回答をお願いします。

○議長（堀尾俊浩君） 市長。

○市長（林 裕二君） ただいま答弁申し上げました。そして、ことしの6月から抜本的に制度が変わったところでございます。これをしっかりと踏まえるというのが1点。そしてまた、高額に集めているところは我々も調べておりますので、それらもきちっと研究していくことが1点。そして、具体的に成果を今上げつつありますので、さらにこの朝倉市のやり方を、今後さらにふるさと納税をしていただく気になるような制度のやり方というのをもう考えておりますので、そういったことをやっていくということでございます。現在のところこの場で、お金を使ってそこだけを増員するというわけには、ここではお答えはしかねます。御理解をいただきたいというふうに思います。

○議長（堀尾俊浩君） 16番。

○16番（実藤輝夫君） やっぱ、もう私からすると、朝倉市は将来に向けて危機的な状況にあると。裕福な生活をされている方とか、年金、いろんな収入がある方にとってはほとんど痛みもないかもしれないけど、一般市民の方々から聞く声は、本当に悲鳴が上がるぐらいです。年金で、この前も国が出したようなことを言われると、何かもう自殺するかどうかというぐらいの考え方になると言う人もいましたよ。

だから、私たちはここでやりとりするだけではなくて、具体的に何をしたいこうという形で進まないとだめだということを言っております。やりとりは何十回もやってきた。今の答えはここで終わってしまって、3カ月後、半年後、少し上がりました。今度は3億5,000万円から6億円、7億円になりました。また、次の年は5億円になりました。ところが、ほかのところは何十億円、100億円近くですよ。

だから、そういったことを考えなければいけない。大概、ふるさと納税について市長もやる気十分と見ましたので、次に移りたいと思います。

で、人口問題、きょうも幾つか述べられました。今後もまた述べられていくでしょう。で、私もこの人口問題、もう本当に恐るべき姿というのを一番最初に言いましたけど、これね、お金をかけてやっているんですよ。先ほどいろいろありましたけども、990万円かかっているんです。これ、朝倉市総合計画。コンサルタントに頼んで990万円。知っていますか。これ990万円ですよ。言っときますけど、これ私たち同僚の皆さんと、研究会に入っていた方とつくって、全部手弁当です、これは。自分たちで文章をつくってききましたから。そして、いろんな意見を述べて2部構成にしているんです。そして、これを整理しまして、皆さんの合意のもとに、ここに研究会の参加者の名前を書いています。

で、これお金は、ほとんどゼロ。唯一言うならば、事務局のコピー代と紙代だけ。これ私たちが原稿を出したら、時の事務局長が、これ全部ワープロを打ってくれたんですよ。これワープロを自分で打ってくれました。最初2人ずっと掛け合いしながら、訂正して、校正しながら。何かもう本当に感謝しています。

そして、この2部構成にしていますが、2部のほうは、ここにずっとその当時の資料を出しています。で、この資料の中に、教育委員会が出した資料もあるんです。2040年にどこどこ小学校、どこどこ中学校は何名になるという。私、それを見て、恐るべき数字を見て、やはり現実にあるんだと。そしたら、統合問題、その他が出てくるんですよ。蜷城と福田、今、小学校統合問題、その他いろいろある。この数字を、やっぱり私たちは認識して、どうやったら、そうならんように。減少していくのは仕方がないけど、早目早目に手を打って、生徒数が確保できるような手を打つということを考えていかにやいかん。きょうはそれも言いたかったけど、時間がないので12月に回しますけど。一緒に考えましょう。なかなか手を打てないんだけど、この資料に載っていますよ、この中に。皆さん、知っていますか、自分の地域の小学校、中学校が今後2040年近くまでの間にどれぐらいの人数になるか。これはデータですから。しかし、全くうそのデータではありません。教育委員会

が県のほうに出した資料ですから。だから、こういったものをしっかり認識しましょう、私たちは。で、手を打ちましょうよ。打たなきゃだめですよ。本当にしまいます、朝倉市は。

それで、人口問題に関して、私、具体性のある話をしましょう。幾ら総論の話をしてもしようがないですから。

これ、私はこのメンバーの中にもおられるんですけど、視察に行きまして、北海道北広島市だったと思いますが、確かに札幌市のベッドタウンになりつつあるんですが、それよりも、そういったことを一般質問されたんですよ、誰かが。そしたら、時の市長は、それは札幌市に近いし、朝倉市と状況が、地形が違います。地理的条件が違います。それを言っちゃあおしまいですよ。何しに私たちは行ったんですか。

やっぱりね、視察に行くということは、ただ単に視察するんじゃなくて、何かを得てくる。それをこの中でぶち明ける。そして、市長とかんかんがくがくやって、いいと思えばそれを実行していく。

その中で特筆すべきことがありまして、人口は、ちょっと持ってきていませんが、朝倉市とよく似ています。で、私がびっくりした。多分、そのことを覚えている方もいるんじゃないかな。38歳の課長でしたよ。課長、38歳。はあっーと言いましたね。38歳ですよ、課長が。そしてその課は10人体制。人口問題の課です。担当する課をその市長の肝いりでつくったというんです。

そして、課長が38歳もびっくりしたけど、職員10人の中に8人が20歳だったんです。そんなところってありますか、どこか。そして何をしているか。それで驚くわけじゃない。私たちが見せられたものは、その20歳代の職員たちが自分たちで発案し、そして提案し、市長が取り入れて行動するということです。そのときに、私がびっくりしたのは、当初予算で1件当たり50万円を出すと。これ入ってくる人です。朝倉市、何人、今、入ってくるか。時間がないので、都市計画課長とか部長にはちょっと時間があつたら聞きますけど。50万円で30件、1,500万円の当初予算。私たちが行ったのが10月末か11月の初めでしたけども、私の記憶によると、それはなくなったそうです。補正予算を組むと、12月。同じように1,000万円になるのか、1,500万円か知りませんが、20件にしたって30件プラス20件ですから。だって、それ実績が出たということがすごいじゃないですか。

もう一つびっくりしたのは、先ほどから都市建設部長は話をして、いろいろ制度はあるけど条件がある。条件に合わないと使えないんです。ところが、びっくりしたのは、市民の皆さんも、傍聴席の人も考えてください。どんなことを20歳代がやったかです。もう50万円投げ渡し。そこに入ってくる人たちの方には野球を見にいこうと、音楽にしよう、食べようと、何でもいいから50万円やりますと。若い人たちの感覚はそうなんです。僕らにはよくわからん。そしたら、必ず議員が、お前、そんなことしてからもったいないやないかと。ちゃんと、きちんとした資格条件を決めてと出てきませんかと言ったんです。聞

きました。僕は後から個人的にもずっと聞きましたから。職員がいや、そんなことはありませんと。市長が肝いりでその課をつくって、そして38歳当時の課長を新進気鋭、これも横からいろいろ言われませんかと聞いたら、いや、そんなことはありません。みんな協力してくれます。横の連携はスムーズにしています。

そして、その8人の若手がこういうカードもつくっていました。パンフレットも自分たちでつくります。そして、それを私たちが、いろはかるたみたいなのができていまして、それをずっとやるんです。すごいですよ。38歳の新進気鋭の、もう文句も言わずに頑張る課長。10人の中の8人が20代。そして、その連中に全ての考え方を任せるという話。お前らが思ったとおりやれと。そしたら、あっという間にやれた。

これ都市計画課長から聞いた話で、先ほどから話が出とったのを参考に言っておきます。リフォームは内部の話ですから、リフォームの話は、今、朝倉市に住んでいる人たちのリフォームをするという話。外から来るのはちゃんと資料があるんです。もういちいちやりませんけど。30年度の実績、1件です。よそから入ってきた人が1件。しかもそれは杷木の林田のほうに行かれたそうです。名前を聞いたら、もともとそこの地の方でした。誰とは言いません、プライバシーの問題がありますから。ありがたいことです。それでも朝倉市に一件でも来ていただいたと。先ほどののはもう無条件で、こういう発想は大丈夫ですかね。私は本当にびっくりしましたよ。38歳もびっくりしたけど、10人中8人を20代でそろえて、そして、課長以下全部、これ外交と言っているのかわかんないけど、あっちこっちに行って、ぜひうちの市に来てくださいとって条件を話して、20歳代がぶわ一つと。で、私たちが行ったところは、そのときには職員はほとんどいませんでしたから。担当の説明する人しかいませんでしたからね。いないんです。もう外に出ているわけ。そして、そういう形で人口問題にかかわっている市がある。

だから、それを、そこは札幌のすぐそばだ。何だかんだと言うのはそうかもしれないけど、今の私が言おうとしていることは、どうして朝倉市の中にできませんか。条件やら地形とか、そういうのは変えることはできません。しかし、1つの体制をつくって、職員に力を入れさせてやる。市長、この考え方はどう思いますか。

○議長（堀尾俊浩君） 市長。

○市長（林 裕二君） 北広島市の事例を御紹介いただいたということでもあります。その中の一つとして、若い課長のもとで若い職員が市長から任されてという話の中で、住宅政策と。50万円の予算をオーバーするようなことがあったということでもあります。

朝倉市も確かに、今、質問の中にありましたように、制限つきのやつがどうしても補助金を活用するという部分もありましたけれども、私は不十分であるというふうに思っております。もうちょっと大胆な、朝倉市に移住していただいて定住していただく。特に若い人たちが朝倉に来ていただくということは必要であるというふうに考えておりますので、議員の考え方には賛同いたしたいというふうに思う次第でございます。

ただ、1点だけ御理解いただきたいのは、現在、朝倉市は災害復旧・復興の加速をしなければならないということがあります。どうしても通常の若い馬力のある職員をそちらのほうに重点的に配置をせざるを得ないということでやらせていただいていますので、通常の事業をやっていくのにもちょっときつところがあるという実態が、実はございます。そういう中で働き方改革の問題等があつて、非常に厳しい状況であるということは、やはり御理解いただきたいと思います。議員の考え方には理解すべき点が多いというふうに考えます。

○議長（堀尾俊浩君） 16番。

○16番（実藤輝夫君） 大事なことを言い忘れておりましたので。それで、ここにも、人口問題研究会の中でも提案していますが、戦略会議をつくったらどうですか。今これだけのメンバーが市長を支えているんです。職員も皆さん、議会も。今これだけの、林市長がベストな状態で行政を行える状況なんです。私から見ると。今まで何十年もやってきた経験の中からすると。

それで、戦略会議をつくって、特に私が昭和58年のときに問題になりました自主再建か、赤字再建かのときには、20人ぐらい集めた。議会から3名出ましたけどね。塚本倉人さんから頼まれまして入りましたが。そういった戦略会議をつくることによって、名称はどうでもいいです。あなたにとって、こういうのをやってくれと。今、災害復興・復旧のために時間がないと言ったでしょう。そうしたら、知恵ある者を集めりゃいいんですよ。みんな来ますよ。そのときも来たんだから。20名集まった。議会から3名出たんだけど。しかも、優秀なあなたのブレーンがずらっとおるじゃないですか。それを、私が12月にまた言いますよ。どういう経験をしてきたか。40年の長い歴史の中に、市長と執行部が中心になって、議会が一体となって何回危機を乗り越えてきましたか。そういったものを市長提案でやってきたんです。議会でやったのは合併特別委員会だけです。あれは自分たちでつくりましたけども、後は全部、市長が、議会、頼む。職員を呼ぼうという形でやってきました。

市長、あなた、先ほどからの話によりますと、いろいろ言いたいことがあるけど総論的な話が多い。で、具体的に私の意見に賛成して。そのときがありましたら、私も協力しますので。市長から何か要請があれば。僕もずっと歴代市長からの要請のもとに頑張ってきました。市長、どうですか。もう時間がないので、最後に一言。

○議長（堀尾俊浩君） 市長。

○市長（林 裕二君） 今後議論をさせていただきたいというふうに思います。しっかりと受けとめをさせていただきます。

○16番（実藤輝夫君） これで私の一般質問を終わります。

○議長（堀尾俊浩君） 16番実藤輝夫議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後3時10分から再開いたします。

午後 3 時零分休憩